

国際課活動レポート

◆スペインガリシア州青少年交流派遣（3月6日～15日）



熊野古道を有する和歌山県は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼道を有するスペイン・ガリシア州と1998年に姉妹道提携を結んで以来、様々な交流を続けてきました。今回は和歌山県の青少年14名がガリシア州を訪問しました。〈以下、感想文抜粋〉

●実際にスペインに行き、スペインの人々の生活に触れ、文化や宗教の違いなど様々なことについて学ぶことができました。また、日本についてスペイン人と話すことで日本のことを伝えることもできました。外国について学び、自国についても深く知ったり外国人に伝えたりすることのできる国際交流にこれからは関わっていきたいと思います。

そして、サンティアゴへの道と熊野古道という二つの世界遺産を通して、外国人と知り合うことができました。言葉が違っても、外国人と親しくなることは難しいことだと思います。しかし、この二つの世界遺産は私達とスペイン人とを簡単に親しくさせてくれました。人と人とを繋げてくれる世界遺産は素晴らしいものだと思います。（E.E）

●僕は今回の研修を通して主に2つのことを学びました。それはコミュニケーションの大切さと積極的に人と関わることの大切さです。人と積極的に関わりコミュニケーションをとることによって新しい道が開けてくるとおもいます。そのことをこれからは大切にしたいと思います。（A.N）

●今回の研修ではスペインの良いところだけではなく、異文化に触れてみてわかる日本の良いところなども知ることができました。この8日間は私の生きてきた中で最も学ぶことがたくさんありました。海外に行くこと自体初めてで、出発前は不安と期待が同じくらいでしたが、今は本当にこの研修に参加できてよかったと思います。熊野古道と姉妹道であるサンティアゴへの道を自分自身の足で歩くことができたこと、旧市街や西洋の建築を堪能できたこと、教会などを訪れ、異なる宗教や文化に触れられたこと、世界遺産や様々な観光地にも訪問できたこと、ホームステイなど、他にもこの研修以外ではできない体験をたくさんすることができました。これからは、この研修での経験を自分の進路や人生に活かしていきたいです。（Y.N）

◆ 在関西領事団和歌山ツアー（4月12日）

鈴木関西担当大使が主催するツアーで、関西地区に駐在するオランダ、パナマ、インドネシア等11か国の総領事ら22名が和歌山県を訪れました。一行は広川町の稲むらの火の館を訪れ、浜口梧陵が津波から人々の命を救った逸話の映像を鑑賞したり、インドネシアのアチェ津波博物館の紹介コーナー等を見学しました。午後は白浜町の近畿大学水産研究所を訪れ、養殖現場等を視察しました。夕方には仁坂知事主催で、県内企業など関係者との懇談会を開催しました。

